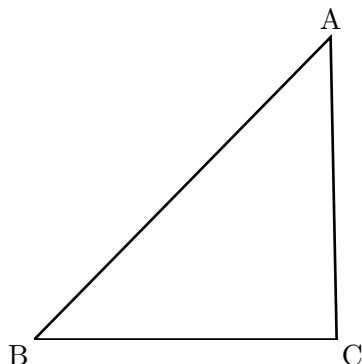


3組の辺がすべてわかるとき。

三角形を書きましょう。以下の三角形を書くためのプログラムです。



```
¥begin{pszahyou*}[ul=8mm](0,5)(0,6)…①
¥tenretu{B(0,0)sw;C(5,0)se}…②
¥CandC¥B{7}¥C{5}¥AA¥A…③
¥Put¥A[n]{A}…④
¥Takakkei{¥A¥B¥C}…⑤
¥end{pszahyou*}…⑥
```

①は pszahyou\* という座標軸を表わすもの (\*は座標軸を表示しないという意味) で、この座標軸上に図を書きますという宣言みたいなものです。ul=8mm とは座標の1目盛りを8mm にしますという宣言です。その隣の (0,5) は  $x$  軸は0から5の範囲を使います。(0,6) は  $y$  軸の0から6までを使いますという意味です。つまり (0,5)(0,6) で  $5 \times 6$  の長方形の範囲に図を書くという意味を表わすことになります。

②は点 B の座標は (0,0) で点 C の座標は (5,0) で、その B と C の文字をどこに表示するかを表わしているのが、sw(南西方向に表示)、se(南東方向に配置) で表示しています。表示しない時は ¥tenretu\* にして、sw などを省けば表示されません。

③の ¥CandC¥B{7}¥C{5}¥AA¥A は点 B にコンパスをさして、半径7の円を書いて、点 C にコンパスをさして、半径5の円を書いて、その交点を AA, A とします。

④は③で求めた点 AA, A のうち A の n(北方向) に A を表示させることを意味しています。

⑤は点 A, B, C を頂点とする多角形を書きなさいというコマンドです。

①と⑥はセットですので忘れないでください。後基本的なことですが、パッケージの宣言を忘れないようにしてください。今回のメインパッケージは

```
¥usepackage{graphicx}
```

```
¥usepackage{emathPs}
```

です。ご参考に、より詳細は emath Wiki などからご覧ください。